

平成22年度第1回鹿児島市交通事業経営審議会 会議概要

(日程・場所・出席者)

(日 程) 平成23年1月13日(木) 13:30~15:05

(場 所) 市役所別館4階 第2委員会室

(出席者) 委員8名

(事務局) 交通局総合企画課

(会議の次第・配付資料)

(会次第) (1) 鹿児島市交通事業 新・経営改善計画の総括

(2) (仮称)鹿児島市交通事業経営健全化計画

(3) その他

(配付資料) 資料1 鹿児島市交通事業 新・経営改善計画の総括

資料2 (仮称)鹿児島市交通事業経営健全化計画(原案)【修正案：概要版】

(協議の概要)

(1) 鹿児島市交通事業 新・経営改善計画の総括

	委員の意見・質疑等
1	<p>部門別の電車・路線バスの収支計算書は。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>20年度は、電車が2億6千万あまりの黒字で、バスは5億2百万の赤字である。</p> <p>21年度の決算の特別利益を除いた営業収益と営業費用の差である経常損益は、電車事業の場合、2億2千万あまりの黒字であり、バス事業は約4億6千万の赤字である。</p> <p>交通局全体で赤字になっているが、バス事業が厳しい状態をつくっている状況である。</p>
2	<p>敬老バスや友愛バスの利用者が21年度は減少しているということであったが、高齢者は増えていっているのに、どうして利用者が減少したのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>21年度が急に落ち込んだことについては、新型インフルエンザの影響や三越の閉店等による影響が大きい。また、敬老バスの方々については、少しでも料金が安いバスに乗られている状況もある。</p> <p>敬老バスについては、民間も含めて市が3分の1負担金を出しているが、その金額で比較をすると、19年度に比べて20年度は2%負担金が減っている。21年度は2.1%落ちて97.9%であり、敬老バス券の交付枚数は増えても、一人一人の乗る回数が年々少しずつ減ってきているということが今の実状である。</p>
3	<p>21年度の2.1%減というのは、20年度に比べてということか。19年度に比べると4%減ということか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>18年度と比較すると、21年度は93.2%であり、6.8%の減である。</p>
4	<p>電車の利用者数はそんなに落ちていないが、バス利用者数の落ち方が激しい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>全国的な傾向で路線バスは減少傾向にあり、市営バスの場合、民間参入や料金改定等により利用者数が全体的に若干下がっている。</p>

委員の意見・質疑等	
5	<p>交通事業経営審議会は、鹿児島市交通局の経営を審議する会であるが、本来であれば、鹿児島県全体或いは市内全体の中の公共交通機関としてのバスのあり方について検討していかないといけない状況にあると思う。</p> <p>危機感を持って、現状を踏まえたくえで交通局をどうするのかについて、今後議論していかなければならない。</p>

(2) (仮称)鹿児島市交通事業経営健全化計画

委員の意見・質疑等	
1	<p>増収対策に効果があるのは、共同運行ではないか。ダイヤを改正する際、交通局だけで行うのではなく、鹿児島市域の移動手段として、こんなダイヤを組みませんかと民間バス事業者に提案していかないといけない。利便性の確保は、市の努力だけでは難しい。どこか、誰かがイニシアチブをとり、市全体の利便性を考えませんかということを提案しないと、共倒れになる恐れがある。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>市街地中心部の交通渋滞は、バス事業者が引き起こしているという認識を持っている。中央駅から市役所前までの道路は、団子状態で特に渋滞がひどい。このため、共同運行は運行の効率化が図られるとともに、運行車両数の削減が渋滞解消に繋がることになるため、今後とも推進してまいりたい。</p>
2	<p>民間事業者と話し合いを設ける場は設けることができないのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>県バス協会の中で自発的にそのような気運が高まってくればよいが、現在のところ、そのような気運の高まりはない。</p>
3	<p>共同運行の目標効果額が0になっているがどういうことか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>共同運行の推進について、現状では見通しが見えないという点と相手方との協議が必要であることから、効果額には金額を入れていないところである。</p>

委員の意見・質疑等	
4	<p>民間のバス事業者も赤字だと思う。赤字なのに便数だけを増やして、将来的にはどうなのかなと思う。</p> <p>共同運行を実現するためにはどこが動かないといけないのか。多分、市が他のバス事業者に働きかけても反応はないと思う。行政の上の方が、大きく動かないと難しいと感じる。</p>
5	<p>市が県に働きかければよいと思う。民間の事業者の社長と話したら、バスも買えないと言っていた。東京あたりの払い下げをもってきたりしている。</p> <p>例えば、リムジンバスとか高速バスは、ルールを守って更新している。やればできるので、県が腰を上げる必要がある。</p>
6	<p>交通局の対応だけでは難しい話になっているが、交通局がなんらかの形でイニシアチブを取るなり、きっかけをつくるなり、どこかに働きかけるなり、そのような活動はできるのではないかと思う。公共交通機関の担い手の立場としてそのような働きかけをしてほしいが、相手のある話であるので、簡単にはいかないと思う。ことある毎に機会を捉えて、話をして欲しい。利用者がどの業者のバスを選ぶということではなく、バスを選んでもらうというところからスタートして行って、少しでもバスの利用を増やしていくというような発想を全体がもっていただかないとこういう話は前に進まないと思うので、働きかけをお願いしたいと思う。</p>
7	<p>市電・市バスの利用促進のため、各種団体へのPRは必要だと思う。私どもの生活圏の中で、町内会、老人会、婦人会、街づくりの団体等、市民団体の数は多く、それらの総会等において、「交通局の経営状態がどうあるのか」「市電・市バスをいかに市民として利用するか」「後3回乗る機会を増やそう」と伝えていきたい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>計画の表紙に分かり易くキャッチフレーズを掲げてあるので、交通局の経営状況を市民の方々に分かっていただき、乗っていただく方が増えればありがたいと思う。</p> <p>また、イベントや楽しいことなど、いろいろな機会を捉えて、情報提供を行い、最終的に3回乗ってもらうというような感じでもっていければよいと考えている。</p>

委員の意見・質疑等	
8	<p>軌道の緑化は、実に評価が高い。鹿児島県の業者がシラスを使ったりして軌道緑化が進められていることを広く県外にもPRしてほしい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>交通局は散水と芝刈り電車を稼働させ、協力している。</p> <p>夜間作業であるため、芝を刈っているところを市民の方に中々見てもらえないところであるが、今後とも、情報発信に努めていきたいと思っている。</p>
9	<p>乗車券について、JRとの連携はできないか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>JR九州バスの車両はラピカで乗車できるが、鉄道に関しては、鹿児島県でどういう事業展開をされるのか分からないため、今後、情報収集に努める必要がある。</p> <p>ラピカは、導入時期が比較的早く、乗車券に特化したICカードになっているため、今頃導入するということであれば、乗車券機能以外の付加機能も考えられる。</p> <p>今後、この件に関しては、情報収集しながら注視していきたいと思っている。</p>